

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※ 受 理 番 号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-90	高等学校	公民科	公 共	
※ 発 行 者 の 番 号 ・ 略 号	※ 教 科 書 の 記 号 ・ 番 号	※ 教 科 書 名		
35 清水	公 共 035-902	改訂版 私たちの公共		

1 編修の基本方針

本書は、教育基本法第2条に示された教育の目標を達成するため、平成30年3月に改訂された高等学校学習指導要領の趣旨に則り、また学校教育法の規定などをふまえて、以下の基本方針に基づき編修しました。

- ▶ 学習指導要領の趣旨に基づき、中学校社会科及び道徳並びに公民科に属する他の科目、地理歴史科、家庭科、情報科及び特別活動などとの関連を図るとともに、項目相互の関連に留意しながら、全体としてのまとまりを工夫し、特定の事項だけに偏らないようにすることに留意して全体を構成しました。
- ▶ 生徒が生きている現在の社会について、「倫理」「法」「政治」「経済」それぞれの分野から記述し、生徒が公共的な空間における主体として、社会参画できるよう、課題を示しました。記述については、高校の第1学年を想定し、中学校で学んだ「社会科（地理・歴史・公民）」の内容をふまえつつ、文脈をきちんと読み取れるよう配慮して編修しました。
- ▶ 第1部においては、青年期の課題、社会や共同体のあり方、文化、宗教・思想の基礎知識、公共的な空間における基本的原理などを学びます。公共的な選択・判断を行うための見方・考え方として、権利と義務、正義・平等・公正などについて考え、活用できるよう配慮しています。
 - ・イラストと会話文などを用いて、テーマや課題についての事例や問いかけ、さまざまな考え方を示し、生徒の関心や考察を深めます。
- ▶ 第2部においては、現代社会における法・政治・経済・国際関係についての現状や諸課題を、生徒の日常生活と関連づけて考えさせることができるよう記述しています。課題に対して、生徒がみずから考え、追究し、行動できる態度を育むことができるよう工夫しました。
 - ・写真や図版などをできるだけ大きく示し、学習の参考となるよう配慮しました。
- ▶ 第3部では、現代の課題である「地域の活性化」「少子高齢社会」「情報社会」「資源・エネルギー」「地球温暖化対策への国際社会の取り組み」について、具体的な事例・課題追究の方法とともに取り上げ、主体的に考察します。

- ▶ 本文として設定された項目と関連して、学習指導要領で示された大項目 A で取り組むべき 2 テーマおよび大項目 B で設定された 13 テーマの多くを、特設ページ「公共ステップアップ」で扱い、生徒の主体的な学びをうながす配慮をしています。
- ▶ 地球規模の課題の解決と人類の福祉の増大、世界平和の実現に向けて、市民の一人として主体的に取り組んでいく姿勢を培うよう配慮しました。未来を拓き持続可能な社会を形成することが、生徒の日常生活とも深いつながりをもつことを理解させ、興味・関心を高めるために、本文や各種の特設ページなどで身近な生活に即した題材を多く取り上げました。
- ▶ 国際化の進む現代社会で、各国の伝統や文化を尊重し、また、日本という国や郷土への愛情をもって学習を進められるよう配慮しました。さらに多文化共生の観点からも考察を深められるよう、資料などを配慮しました。

2 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第 1 部	第 1 部『公共』とはなんだろうは、「社会で生きるということ」、「みんなが幸せな社会とは?」、「ルールや法はなんのため」の 3 つの章で構成し、それぞれの項目において、「公共」について丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察をうながすことに意を用いました。(第 1 号)	第 1 部すべて
	法の意義と役割について丁寧に記述し、社会人として身につけるべき道徳観にも配慮しました。個人と社会とのかかわりなどにおける法意識、ルールやマナーなども取り上げて、生徒が理解を深め、主体的に考察できるように記述しました。(第 1 号・第 2 号)	44～51 ページ
	法の概念・制度とともに、倫理の面からも正義と責任について考えさせ、どのように平等な社会を実現できるか考えさせるよう留意しました。(第 3 号)	44～47 ページ
	「生命倫理」や「環境保護」についての課題を具体的に扱い、追究したり、解決をめざしたりする考察を進める中で、自らの考えや意見について根拠や論拠をもって表明できる力を習得できるよう意を用いました。(第 4 号)	38～43 ページ
	日本で育まれてきた伝統的な文化と、今の日本で見られる文化の諸相を記述し、国際化の進む現代社会で、日本という国や郷土への愛情をもって学習を進められるよう配慮しました。(第 5 号)	24～25 ページ 32～33 ページ
第 2 部 第 1 章	第 2 部「現代社会のしくみと課題」は「私たちの社会と憲法」、「私たちの生活と政治」、「平和主義と日本」、「私たちの生活と経済」、「国際政治・経済と日本」の 5 つの章で構成しています。それぞれの項目において丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました。(第 1 号)	第 2 部すべて
	個人の尊重と社会の関係、民主主義と立憲主義についてふまえた上で、日本国憲法にある基本的人権について理解し、具体的に考えられるように記述しました。(第 1・3 号)	54～73 ページ
第 2 部 第 2 章 ・ 第 3 章	「私たちの生活と政治」、「平和主義と日本」の章では、それぞれの項目において基礎・基本について丁寧に記述・解説しました。具体的な場面と生徒の生活が結びつけられ、より深い理解と多角的な考察を促すことができるよう、配慮して記述しました。(第 1 号)	第 2 部の 2 章と 3 章すべて

図書の 構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
	政治機構と国民生活とのかかわりなどについて、資料や図解などを用いながら、丁寧に解説しました。司法制度への参加や主権者意識について理解を深められるよう、課題を設定しています。課題を追究したり解決したりする活動を通して、生徒が主体的に考察できるように工夫して記述しました。 (第2号)	74～99ページ
	行政の役割や地方自治の役割などを丁寧に記述しました。公共の精神にもとづき、主体的に社会（政治）に参加することなどについて、写真や資料などから具体的に考えられるよう工夫しました。また、情報社会における行動とその影響についても、意識して記述しました。 (第3号)	74～99ページ
	「平和主義と日本」では、日本がこれまで国際社会の平和に寄与してきたことなどを整理して記述し、これからの国際社会でどのような役割を果たしていけば良いのかを多角的な視点から考察しました。 (第4・5号)	100～105ページ
第2部 第4章	「私たちの生活と経済」では、社会生活における経済の基礎・基本について丁寧に記述・解説しました。特設ページにおいて多様な課題を設定し、具体的な話題を豊富に示して、経済をより身近に考えられるよう工夫しました。 (第1・2号)	第2部4章すべて
	市場など経済の基本的なしくみについて、基礎・基本を押さえて記述し、経済のしくみや企業や労働問題、消費者問題などに関心をもたせ、産業や職業と自分の生活を関連させてとらえられるように留意しました。また、経済活動における契約についても取りあげました。 (第2号)	第2部4章すべて
	現代の日本社会における金融や財政、経済における政府の役割などを整理して記述しました。働くことの意味や社会とのかかわりの記述を充実させ、起業などにもふれ、自主・自立の精神と勤労を重んじる態度が養えるよう配慮しました。 (第2・3号)	120～143ページ
	財政と社会保障など、経済に関する問題をどのように解決したら良いか、課題を設定し追究したり考察したりする活動から、持続可能なより良い社会の形成に向けた考えを深められるよう、工夫しています。 (第3号)	128～149ページ
第2部 第5章	「国際政治・経済と日本」では、国際間におけるルールの基本的な考え方や成り立ち、現代の国際政治のしくみや現状などの基礎的な内容を、丁寧に記述しています。課題の設定では、国際的な視野を育み課題解決に向けて取り組めるよう意を用いました。 グローバル化の進む世界経済のしくみや現状について、資料などから読み取って学習を深められるよう、意を用いました。 (第1・5号)	第2部5章すべて
第3部	「私たちが創る持続可能な社会」では、5つの現代の課題について解説するとともに、具体的な事例を示しました。地域社会の活性化、少子高齢社会への対応、情報社会における問題点の検証、資源・エネルギー利用の問題、地球温暖化に対する国際社会の取り組みを扱っています。それぞれの項目で、生徒の主体的な課題探究に役立つさまざまな手法を事例とともに紹介し、「課題探究のスキル」を活用できるよう関連付けました。 (第1～5号)	第3部すべて
	地域の活性化については、課題解決をめざす社会的企業の考え方を示し、実際に起業して取り組む若者の例を紹介しました。 (第2号・第3号)	180～181ページ
	少子高齢社会の問題を考察する項目では、どのような取り組みが行われているか、また基礎的な資料を示して現状を把握し、主体的に社会の形成に参画することを考えられるよう記述しました。 (第3号)	182～183ページ
	資源・エネルギーや地球温暖化対策の取り組みについては、持続可能な社会の形成のために、他国と協力し国際社会の発展に主体的に参加することを考えられるよう、意識して記述しました。 (第5号)	186～187ページ 188～189ページ

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

本書は、上記以外に、以下のような教育的な配慮をほどこしました。

▶世界地図・日本地図の掲載

- ・国際協調の精神を養う契機となるよう、前見返しには世界地図を掲げました。
- ・前見返しの裏には、日本地図と、日本や郷土の歴史と文化、伝統への生徒の親近感を高める国内の世界遺産の位置や写真を掲載しました。

▶記述・体裁上の配慮

- ・本文はつとめて平易・簡明としながら、重要なポイントは確実におさえられるように記述しました。
- ・重要な語句にはゴシック体を用いて、わかりやすくしました。
- ・活字にはユニバーサルデザイン・フォントを使用し、できる限り多くの生徒にとって読み取りやすい教科書となるよう配慮を行いました。
- ・図版・地図などは読み取りやすい配色を心がけました。

▶巻末資料

- ・学習の利便性を考え、巻末に憲法や法律の条文を掲載しました。

▶二次元コードからアクセスできる参照資料

- ・授業や自主学習において活用できる、教科書の内容と関連した事項や資料などを、ウェブ参照資料として用意しました。
- ・該当ページに二次元コードを掲載し、参照資料にアクセスできるようにしています。
- ・参照資料の内容については、付録に一覧表を示しました。

▶多彩なテーマの特設ページ

- ・「公共」について、本文とは異なる角度から考察する特設ページで、生徒の興味・関心を引き出し、主体的な思考を育みます。

「公共ステップアップ」:

- ・本文と関連するさまざまなテーマについて、問いを設け、資料を見ながら、主体的に考えていきます。本文と関連する随所に、配置しています。
- ・イラストを用いて、生徒が身近に感じられるように工夫しています。高校卒業後に進学・就職することや、18歳での成年、社会で生きていることをみすえ、実務的な知識についても考えます。

「オピニオン」:

- ・議論のあるテーマについて学んだ上で課題を設け、本文ページの学習で習得した知識や、公共的な見方・考え方を活用して、自分自身の意見の形成や、さまざまな意見にふれて考えを深めることをめざします。

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-90	高等学校	公民科	公 共	
※発行者の 番号・略号	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
35 清水	公 共 035-902	改訂版 私たちの公共		

1 編修上特に意を用いた点や特色

① 授業のしやすさに配慮したページ構成

- ▶原則，見開き2ページで1つのテーマを設定。本文は，文章の内容を読み取りやすいように配慮して記述しました。
- ▶導入部に「この項目の学習」をおき，テーマの学習内容が明確になるように配慮しました。側注「キーワード」では，本文を読み取るうえで大切な用語や補足的な内容を解説しました。
- ▶図版や写真を大きく配置して，生徒の興味・関心や学習への意欲を高め，テーマの内容を具体的に考えられるよう配慮しました。また，図表・資料などを活用しながら授業が展開できるように図番号を付すなど，本文と図版との関連を重視しました。

[illegible]

② 多角的・多面的視点からアプローチする特設ページ

▶学習指導要領に即して、課題を設定して探究する取り組みを、15テーマ「公共ステップアップ」として設けました。また、公共的な見方・考え方を意識しながらテーマについて考察し、自分の意見を考える3テーマ「オピニオン」を設けています。

▶「第1部『公共』とはなんだろう」や「第2部 現代社会のしくみと課題」の本文ページで学習した社会的事象や現代的課題について、さらに多面的・多角的に考察できるよう工夫しました。

公共ステップアップ 15 テーマ
1 欲求と葛藤
2 生命と科学技術の問題と倫理
3 環境問題と人間の活動
4 社会のルールをどうつくる？
5 政治に参加する方法
6 あなたも法廷に？ 裁判員制度
7 情報発信のしかたに注意！
8 暮らしの中の金融と社会
9 職業の選択
10 労働契約と労働法
11 契約と消費者問題
12 暮らしの中の社会保障
13 平和を構築するには
14 経済のグローバル化と相互依存
15 日本の国際貢献を考える

オピニオン 3 テーマ
1 アファーマティブ・アクション 不利な立場を考慮する措置は必要？ それとも「逆差別」？
2 日本国憲法 改正は必要？ 必要ではないか？
3 国際的な人権 共通の価値観を形成・合意できる？ できない？

公共ステップアップ-12

暮らしの中の社会保障

私の生活の中にどんな社会保障制度があるのだろうか。

公的医療保険があるおかげで、治療の自己負担が少なくて済む。でも病気になった時には助かるって思うじゃない？ 人生のいらないリスクに個人だけで備えるのは大変じゃないかな？

個人で損益や民間の保険で備える選択もあるのに、なぜ国全体で保険を運営したりするのだろうか。国民一人一人が人間らしく生きる権利を保障すると同時に、人びとが安心して生活できることで、社会や経済の安定を図ることもめざしているのだから。

一方、その財源をどうするか、どう配分するかは、政策や法律によって決めていくことになる。税と社会保障から、どんな政府や社会のあり方をめざすのか、考えてみよう。

5Q 1 生活のどんな状況でどんな公的社会保障が使われているか、調べてみよう。

災害時に被災者が、失業手当で生活が助かりました。

職場で業務中にケガを負いました。治療費は労災保険でまわりました。

生活のおもな部分は年金です。

病気で働けず退職した時、生活保護の給付を受けました。

病気で療養中、介護を受けています。55歳未満でも使える介護給付があります。

小学生・中学生の子供がいます。児童手当が支給されています。

ひとり親家庭です。児童手当の支給があります。

けがで療養の状態になりました。障害年金を受けています。

高齢の親が介護保険でサービスを受けています。

病気で介護保険を利用してサービスを受けています。55歳未満でも使える介護給付があります。

●私たちのくらしを支える社会保障

●利用するには？

●社会から得る途中で、転んで困る人が増えています。介護保険や障害年金、生活保護など、お金の流れがどうなっているのか、考えてみよう。

検討・意見の形成のために、どんな作業や資料が必要だろうか？

アファーマティブ・アクションとはどんなものか調べる

アファーマティブ・アクションが行われている例を調べる

アファーマティブ・アクションの対象となっているのはどんな人か調べる

アファーマティブ・アクションにはどんな方法があるか調べる

アファーマティブ・アクションの考え方が生まれた背景を調べる

アファーマティブ・アクションについて問題点や議論があるか調べる

その他 どのような資料を見たり、作業をしたりするとよいだろうか？

考えてみよう

公共的な見方・考え方を意識しよう。

1 さまざまな「平等」のあり方を意識する

一口に「平等」と言っても、どんな状況が平等なのか、その考え方はいろいろある。次の図表を調べて、どのような人が公平か、考えてみよう。

●絶対的平等

●相対的平等

●機会の平等

●結果の平等

2 自分とは違う境遇や立場の状況を意識する

社会には、いろいろな境遇・立場の人がいる。社会のしくみを作るときにはそのことを考慮する必要がある。自分とは違う立場を、どうしたら意識することができようか？

ロールズの「無知のヴェール」を参考に考えてみよう。

議論をもとにした主張 資料と検討をもとに自分の立場を説明・主張してみよう。

措置は必要 アファーマティブ・アクションを行うことは必要？ 必要ではない？

措置は必要ではない

社会的な不利は、自己責任で解決できるんじゃないかな。

格差が解消したという判断はどうか？ いったん格差を解消したとしても、格差が再発するのでは。

社会全体の多様性が、いろんな分野でも反映されるべき。そのための調整は必要。

能力や実力で評価すべき。実力では負けていないのに落とされたりしたら、不公平だ。

上の主張の例も参考に、自分の意見をまとめてみよう。

▶アファーマティブ・アクションが有効だと思う分野はありますか？

▶アファーマティブ・アクションは行わない方がいいと思う分野はありますか？

▶差別や格差を減らしていくためには、どんなことが有効だと思いますか？

③ 生徒の興味・関心を喚起する多様な素材

- ▶ 中学校での学習をふり返りながら基礎的な内容を確認するテーマ学習、「Check Box」を設けました。テーマ学習「ズームアップ」では、本文の内容を深めるさまざまな話題を取り上げました。
- ▶ 本文と関係させた事例や事項、思考実験などを示す「アプローチ」は、各分野にまんべんなく配置し、生徒が興味・関心を持てるような問いを提示しました。

Check Box
1 日本経済の進展 1
2 日本経済の進展 2
3 国際社会の動向と日本
4 世界経済の動向

ズームアップ
1 世界の宗教
2 世界の思想
3 日本の思想
4 世界の統治機構
5 世界の選挙事情
6 世界の政治参加
7 経済思想と経済体制
8 需要曲線・供給曲線のシフト
9 非価格競争
10 よりよい経済社会をめざして

ズームアップ⑤ 世界の選挙事情

■「18歳選挙権が実現！」その背景にあるものは？

ヨーロッパの市民革命によって身分に関係ない選挙権は獲得されていくが、はじめのころは男性のみの選挙権で、さらに所得などによる制限があった。その後、イギリスのチャーチスト運動を経て20歳男子普通

女性の参政権については、18世紀フランスなどのなかから、女性の政治への参加を求め始めた。初めて女性の参政権が認められた年、ニュージーランドの選挙権である。日本大正時代から女性の参政権を求めようとしたが、第一次世界大戦をはじめると、前線に多くたされ、男手が足りなくなった軍需工場での輸送などが女性の手にまわって行われるようになり、女性たちから国政参加の要求がこもり、第一

その後、男女平等の普通選挙権が多くの国で確立された。たとえばアメリカでは、ベトナム戦争で18～25歳の男性に徴兵が課せられていたことを強制されるのだから、戦争に對する言う権利があつてしかなるべき」との考えで選挙権が引き下げられた。

94 第2部 現代社会のしくみと課題

世界の選挙事情

■おもな国・地域の選挙権年齢(2015年)

問1 地図中のピンク色の国は、ある共通点がある。何だろうか？

問2 16歳や17歳選挙権の国をあげてみよう。(解説はページの下にあります)

日本の男女普通選挙権は、太平洋戦争終了後の1946年に実施された。2015年には、憲法改正国民投票法との整合性を理由に、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられた。しかし、欧米のように「私たち

アプローチ⑬

ソーシャルメディアと民主主義

インターネットによる情報提供なしに、「アラブの春」(2010年から2012年にかけてアラブ世界において発生した、かつてない大規模な反政府デモ)はなかったといわれることがある。しかし、その一方で、近年顕著な国内世論の二極化や自国優先主義がまん延している背景に、自分の志向にあった情報だけをプッシュ型で提供してくれるSNSの存在を指摘する見解もある。

私たちは、さまざまな情報をさまざまなメディアから得られる環境にある。全体を見失わないよう、情報をバランスよく収集することが大切である。

図3 強権政治からの解放を喜ぶ女性(リビア、2011年)

④ 多様な課題探究活動の例示とスキル

- ▶ 「第3部 私たちが創る持続可能な社会」は、学習指導要領に則り、科目のまとめとして位置づけて構成しました。課題を追究したり解決したり、取りまとめて発表したりする活動を例示しました。
- ▶ 「1 いきいきとした地域を創るには」では、地域づくりへの参画の参考事例を示しました。「2 少子高齢社会の現在と将来」では、資料の読み取りを行い、現状や要因の分析を行います。
- ▶ 「3 情報社会 個人情報の扱いは？」では、個人情報の取り扱いの問題について、ディベートを用いて考察します。「4 持続可能な資源・エネルギー利用とは」では、資料を検討してメリット・デメリットを整理した上で、構想する活動を例示しています。「5 地球温暖化に国際社会で取り組むには」では、合意形成をめざす上でのプレゼンテーション活動を例示しました。
- ▶ 「課題探究のスキル」では、課題探究のための具体的な手法とその考え方を記述しました。課題設定のためのヒントやメディアリテラシーなど、生徒が読んで理解できるよう工夫しています。

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1部 「公共」とはなんだろう	A 公共の扉		13
第1章 社会で生きるということ 1 私たちと青年期 公共ステップアップ1 欲求と葛藤 2 私たちと社会 3 人間の社会と文化 ズームアップ1 世界の宗教	(1) 公共的な空間を作る私たち	18～27 ページ	4
第2章 みんなが幸せな社会とは？ 1 よく生きるとは？ 徳 ズームアップ2 世界の思想 ズームアップ3 日本の思想 2 幸福な社会とは？ 功利主義 3 幸福な社会とは？ 正義の原理 公共ステップアップ2 生命と科学技術の問題と倫理 公共ステップアップ3 環境問題と人間の活動	(2) 公共的な空間における 人間としての在り方生き方	28～43 ページ	6
第3章 ルールや法はなんのため 1 社会と法 2 法はなぜ必要なのか 公共ステップアップ4 社会のルールをどうつくる？	(3) 公共的な空間における 基本的原理	44～51 ページ	3
第2部 現代社会のしくみと課題	B 自立した主体としてよりよい 社会の形成に参画する私たち		45
第1章 私たちの社会と憲法 1 個人の尊重と社会 2 民主主義と立憲主義 3 日本国憲法の成立と基本原理 4 自由権とは 5 平等権とは 6 社会権 人間らしく生きる権利 7 参政権・請求権 公共の福祉 公共ステップアップ5 政治に参加する方法 8 新しい人権	(1) 主として法に関わる事項	54～73 ページ	8
第2章 私たちの生活と政治 1 日本の統治機構 ズームアップ4 世界の統治機構 2 国会のしくみとはたらき 3 内閣と国の行政機関 4 司法権と裁判のしくみ 5 紛争解決のしくみ 公共ステップアップ6 あなたも法廷に？裁判員制度 6 地方自治の役割と現状 7 選挙のしくみ 8 政党と政治参加 ズームアップ5 世界の選挙事情 ズームアップ6 世界の政治参加 9 民主政治の原理と世論 公共ステップアップ7 情報発信のしかたに注意！	(2) 主として政治に関わる事項	74～99 ページ	12

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第3章 平和主義と日本 1 日本の平和主義と憲法 2 日本の安全保障政策 3 日本の外交と平和な社会の構築	(2) 主として政治に関わる事項	100～107 ページ	3
第4章 私たちの生活と経済 1 私たちの生活と経済活動 ズームアップ7 経済思想と経済体制 2 市場経済のしくみ ズームアップ8 需要曲線・供給曲線のシフト ズームアップ9 非価格競争 3 市場の限界と対応 4 企業の経済的役割 5 金融機関の役割 公共ステップアップ8 暮らしの中の金融と社会 6 国民経済と景気変動 7 政府の経済的な役割 8 税と日本の財政の課題 Check Box 1 日本経済の進展1 Check Box 2 日本経済の進展2 9 さまざまな産業とその変化 公共ステップアップ9 職業の選択 10 労働に関する制度と課題 公共ステップアップ10 労働契約と労働法 公共ステップアップ11 契約と消費者問題 11 社会保障制度の意義 公共ステップアップ12 暮らしの中の社会保障 ズームアップ10 よりよい経済社会をめざして	(3) 主として経済に関わる事項	110～151 ページ	14
第5章 国際政治・経済と日本 1 国際社会と国際法 2 国際連合と国際機関 Check Box 3 国際社会の動向と日本 3 軍縮と平和への取り組み 公共ステップアップ13 平和を構築するには Check Box 4 世界経済の動向 4 貿易・外国為替 5 発展途上国・地域経済統合 公共ステップアップ14 経済のグローバル化と相互依存 6 持続可能な国際社会 公共ステップアップ15 日本の国際貢献を考える	(2) 主として政治に関わる事項 (3) 主として経済に関わる事項	154～177 ページ	8
第3部 私たちが創る持続可能な社会	C 持続可能な社会づくりの 主体となる私たち		10
1 いきいきとした地域を創るには 2 少子高齢社会の現在と将来 3 情報社会 個人情報の扱いは？ 4 持続可能な資源・エネルギー利用とは 5 地球温暖化に国際社会で取り組むには		180～189 ページ	10
		計	68